

四季

〈広報誌〉
S h i k i

ハートフルな
情報をお届け!!

vol.01
新春号
2018.1



特集
PICK UP

子供から大人まですべての人が 共に生きる社会を目指す

- 01 理事長だより ちょうしん記
- 03 特集 子供から大人まですべての人が
共に生きる社会を目指す
長崎市の取り組み

- 07 多様化する看取り
〈看護小規模多機能ホーム編〉
- 09 Multiple
ちょこっと健康レシピ/スケジュール
- 10 Gallery
読者投稿けいじ板〜日々是好日〜

長崎
料理
だより

ちようしん記

2018
Heartful
Message



『ちようしん記』が気分一新、 『四季』に生まれ変わりました

タイプでポリ容器に詰められ、見た目もまさにちゃんぽんスープである。品質管理された食材から作られる料理は、当然の事のように一定の味を保つ。リンガーハット然りである。個性を出したければ、更に何かを付け加えるとなれば、我が家のちゃんぽん」の出来上がりである。

医

療の世界では40年程前に「チーム医療」と言う言葉が生まれた。一人でやるよりは複数（多職種）でやったほうが文殊の知恵、を期待したのである。これはまさに「多職種ちゃんぽん」である。この場合の「ちゃんぽんチーム」とは、専門を異にする複数の診療科と複数の職域人の協働作業を指している。一人の患者又は一群の患者集団に対してチームで対処することにより、困難な病気や多様化した医療ニーズに迅速かつ的確に 대응して行くと言う試みで、現在の医療はこのチーム医療が基本となつて

心

意気が紙面に表現出来ていますかどうか、ご賞味下さい。『ちようしん記』と言う名称には長年の愛着が有りますので、私の担当する巻頭言部分のタイトルに残しました。世の中の現象を確実に聞き分けられるよう精進してまいります。まず一新後の第一作は、おなじみ「長崎ちゃんぽん」のお話し。

長

崎名物と言えば「ちゃんぽん」。どんぶりの中に小宇宙が盛り込まれている。料理は麺部分、海の幸・山の幸を取りまとめた具部分、そしてスープ部分（豚骨、鶏がら等）の3層構造で構成され、我々長崎人の食の定番である。それぞれを

料

理としての「ちゃんぽん」とは別に、言葉としての「ちゃんぽん」も一人歩きしている。「ウイスキーと日本酒をちゃんぽんにしたので悪酔いした」云々。まるで、「ちゃんぽん」が悪いと言わんばかりである。この場合の「ちゃんぽん」は無作為にまぜこぜにした状態が悪い結果をもた

いる。この場合の対象は病人、対応するメンバーは医療人、これを一定の方向へ動機付ける精神（スピリット）で、くしくも料理「ちゃんぽん」と同じ3層構造となっている。ここで、ちゃんぽんスープに相当するのはスピリット。この場合、医療という同質の汁で作られたスープであり、その範囲内では味に違和感はない。

チームの範囲が広がれば、当然ちゃんぽん規模も大きくなるし、味も変わる。ちゃんぽん用どんぶりを大きくして、その中に増量した麺や、種類の増えた具材を盛り付けたとしてもスープと言うスピリットが問題となる。これだけの量をまかなうスープとなると、古いチーム医療スープでは医療臭くなって辟易する。混ぜ合わせた食材に水分を加えて加熱すると何らかのスープが出てくるが、常に美味しいとは限らない。新しいどんぶりには新しいスープと行きたい所であるが、まだそこまでは熟成されていない。

高

高齢化社会の到来、入院から在宅医療・介護への療養形態の変化、それに対応する介護保険の進化？と医療保険の変質。2年毎の保険制度改革は制度としての安定性を欠き、朝令暮改の印象を与えている。国家の財政事情から派生した保険制度設計は、更に医療・介護従事者、自治体職員のみならず地域住民を巻き込んだ「地域包括ケア」という壮大なロマンへと変貌を遂げようとしている。自治体主導のこの社会運動チームは地域毎にもれなく配置され、多職種連携を推進エネルギーとして多数の会合、説明会が持たれ、社会への浸透を図るべく展開中である。コストのかかる社会的入院及び施設入所の制限と、低コストですむと錯覚されている在宅療養の奨励というセットの流れは更に強化され、その実現の為に多くの社会的資源を投入しての壮大な社会運動へと向かっている。その実現の為に、一般市民を巻

き込んでの支えあい運動でもあるから、それを可能にするボランティア精神の醸成がバックグラウンドとして不可欠となる。果たして、我々を取り巻く社会システムは、そこまで熟成を遂げているのであろうか。そこで登場するのが「我が事・丸ごと」の支え合う地域づくりというスローガンである。かつての「欲しがりません、勝つまでは」を彷彿とさせる。ここまで来ると、ただ単なる制度の問題ではなく、価値観や文化の問題へと転化される印象にもなる。一方では、市民の高齢化と共に壊れゆくこうとする地域活動の現状がある。これでは折角のスローガンも実現が危ぶまれる。住民同士の密接なコミュニケーションを求めようとしても、地域での人間関係の希薄化、空洞化の進行がその行く手を阻む。

私

私たちは、これまでの行き方の何かを変えて行かねばならない。しかし、問題が大

きく、一人では立ち向かえない。多くの専門職が参加する多職種共同と市民参加型の人材チャンピオンの試みは、その突破口となりうるか。一人では出来ないことも、沢山集まったら何か出来るような気がする、という思いが届くのか。只々、多くの具材が加わる「新型ちゃんぽん」が絶妙な味を創り出すこと、を祈るばかりである。その為には、各具材のしっかりした下ごしらえが不可欠と考えられる。

壊れかけた社会制度を再構成するのは困難な事業である。しかし、自分自身の生活を守る為には避けては通れない。そこには、自己主張を抑制させた、新たな思考様式と価値観が求められている。今、私たちの求心力のセン



医療法人 春秋会・
社会福祉法人 五蘊会
理事長 永田 剛

子供から
大人まで
すべての人が

共に生きる社会を目指す

1

長崎市の取り組み
「多機関型地域包括支援センター
について」

南多機関型地域包括
支援センター

立石 大輔

厚労省の「我が事・丸ごと」地域
共生社会の実現において、長崎市で
は多機関型地域包括支援センター
(以下、多機関)を開設されていま
す。この多機関は長崎市が推進し
ている長崎版地域包括ケアシステ
ムの基盤整備の一つとして位置づけ
られ、すべての世代で複雑な課題を
抱えておられる方の支援をしてい
ます。

今回、平成28年10月に開設され
丸1年が経過したこの多機関につ
いて長崎市福祉部政策監 山口
伸一様にお話を伺いました。



左)長崎市福祉部
政策監
山口 伸一 氏

長崎版地域包括ケアシステムとは

地域包括ケアシステムは、市民が
望んでいる住み慣れた地域で暮ら
し続けて頂こうとするものでこれは
全国のシステムと同様ではあると
思います。だが、長崎市は地形的な
物で斜面地が多いとか、原爆被害
者が多い、それに伴って医療施設と
か介護施設が他の類似都市と比べ
ても比較的多いとか、色々な地域
よっての特性があると思っています
す。地域に入っていくこうとしている
医療機関、介護事業所も多く、それ
らの方たちと一緒に地域住民も巻き
込んで住み慣れた地域で暮らし続
けられる支援体制を、地域の実情
に合った形で構築していくこうする
ことが長崎版地域包括ケアシステ

ムです。理念的なものは一緒でしょ
うが、地域で暮らし続けるために
色々な専門職と住民が一緒になっ
て作っていくという思いです。

多機関の開設にあたり、
特に期待していた効果や役割とは

我々が多機関をやろうとしたの
が地域共生社会の実現です。我々
の専門としては高齢者ですが、高
齢者の世帯にも子供のひきこもりや
生活困窮があり、複合的な課題を
抱えている人が多数いることは元々
認識がありました。生活保護に至
らない方でも生活が苦しい等、制
度のはざまの方々もいらっしゃる。
地域包括ケアシステムで地域を支
えていくこうする中で「そのような課



題を抱えた方の入り口のな受け皿として、多機関型をやってみよう」が、まず我々が思っていたことです。

子どもや障害などの相談支援機関、これは既存の国の制度ではそれぞれ縦割りで分かれていて、これまで横の繋がりがなかなかなかった。

高齢、子ども、障害、生活困窮のそれぞれの相談機関が横串で繋がることも今後の地域を包括的に支援していくために必要でないか。そのための関係機関との連携づくりが非常に大きな役割でないかと言うことが設置した理由の一つにはあります。また、制度のはざまや制度に該当しないような方など、どこへ相談にいったいい

のかわからない方の相談窓口となるのが役割だと思っています。もう一つは、世帯をトータルでアプローチしていく中で幅広い

知識を持った人たちが長崎市内に生まれていくことが、今後の複雑な地域共生社会をめざすのに必要だろうという思いがありました。幅広く受け止める知識を持った人材を育成することが効果の一つだと思っています。

特に注目している多機関の活動とは

今は相談支援機関同士の連携はある程度できていると思いますので、今後は市民へどう周知していくのか。今、提案が挙がっていることには、いくつかの相談機関が一緒になったの出前相談と市民向けのパンフレットの作成があります。

地域の色々な相談を受け付けることは1年過ぎて体制的に固まってきたと思います。支援する際に地域の色々な資源、医療機関や、サロンがいくつかあるのかを把握して地域の資源を踏まえて相談に応じて支援する。地域資源の把握、地域資源をいかに使うかが今後期待する活動と思います。

多機関へ感じている課題とは

多機関は動いていく中で、色々な相談機関との繋がりができてきた。だが行政が一番横の繋がりができていない。予算に縛られて子どもと障害、高齢とそれぞれが結びついていない。まず行政が横串を指すというか行政間の連携が必要かと思っています。

10月に始まった行政サテライトでは総合事務所として縦割りの関係機関に横串を指すことになっていています。これは多機関と同じ理念をもって行政がまとまって色々な相談に応じようという体制です。今まで行政の連携が取れていなかったのが我々の反省かと思っています。

多機関に今後望むことや今後の展望とは

動きとしてはよく動いて頂いていると思っています。「我が事・丸ごと」地域共生社会を目指す中で、一番入口のところなのでここを全国でも先進的な取り組みにできないかと思っています。相談支援機関の連

携はある程度取れてきていますから市民周知をすることで市民の皆様にも分かっていたら、安心感を持っていただく。市民への広がりと、多機関と行政が一緒になって市民を支援していく体制を作っていくかなくていいかと思っています。

市民の皆様に向けて一言お願いします

長崎市は多機関を全国でも先進的に設置しています。1年動いて多機関の役割や体制はできていますので、是非市民の皆様は今後、地域の中で色々な課題など出てきたときや相談が出てきたときはご相談いただければと思っています。制度のはざまやどこに相談に行ったらいいかわからないときに、安心してきる相談窓口があるというのは非常にメリットになっていると思います。第二義的な窓口はできていて、体制も推進員を3人ずつおいて頑張っているのです。まず何かあったら市内に2つある多機関にご相談頂ければと思います。

2

「医療の役割」について

南長崎クリニック 高木 良志子

現在、介護・医療を取り巻く問題を解決するため市町村が中心となり、「住まい」「医療」「介護」「生活支援・介護予防」を、包括的に体制を整備していく取り組みを自治体が行っています。

その中で「医療の役割」についてご紹介します。

まず、医療機関は、救命に重点をおく救急病院・慢性期に携わる病院・かかりつけ医とされる地域の診療所など3つに大別されます。

病気を抱えていても入院という型のみでなく、自宅・施設等の住み慣れた生活の場で療養し、自分らしい生活を続けるための支援として在宅療養の幅が広がっています。南長崎クリニックも、地域の診療所としてかかりつけ医の役割を担っています。

病院・診療所・訪問看護ス

テーション・薬局など複数の医療機関で情報共有を積極的に行い、医師・看護師・薬剤師・リハビリの専門職・栄養士など医療従事者が、自宅訪問するなど一人ひとりを支えるようになってきました。医療機関で地域の方々としっかり支え、介護や福祉サービスにつなげる役割を担っていきます。



医師の訪問の様子

3

在宅生活を送るための
介護予防

大浦地域包括支援センター 森本 由香里

一人暮らしの高齢者や認知症高齢者などが増加する一方で、多くの方が自宅生活を希望しています。今回はそれを支援する介護予防についてご紹介します。

平成29年9月の長崎市の高齢化率は30.4%、団塊の世代が75歳以上となる2025年には、長崎市の高齢化率は約35%となり、少子化・高齢化が進むと予測されます。

皆さんは「高齢者ふれあいサロン」を御存知でしょうか？

長崎市には平成29年8月時点で152か所のサロンがあり、大浦・梅香崎中学校区には12か所あります。公民館や保育園など地域の気軽に集える場所で、サロンサポーターが中心となって開催されています。自宅から離れて運動や物づくり、おしゃべりなど楽しみながら行い、様々な活動を通して体力や認知症を予防しています。また住民同士の繋がりを深

め、生きがいを持って元気に暮らすための交流の場となっています。サロンを休むと皆が心配し、一人暮らしの方の安否確認にも繋がっています。

また昨年4月からは、要介護認定の手続きをしなくても基本チェックリストに該当すると、半年間限定の短期集中型通所サービスや約半日利用のミニデイサービスが利用できるようになりました。

自分らしく住み慣れた家・地域で暮らし続けていくためには、一人一人ができる限り介護予防に努めるとともに地域や家庭の中で何らかの役割を担いながら生活する事が大切です。

地域サロンの様子



短期集中型通所サービス
(大浦十三番館
デイサービス)



4 こども・子育て支援 新制度について

とまちこども園

羽生 純子

我が国の社会的課題となつて
る「少子化」「子育て家庭の孤
立化」「待機児童」問題などに
対応するため、国は子どもや子
育て家庭を支援する新しい子育
て支援を発表し、平成27年より
施行いたしました。

長崎市においてもニーズ調査を
基にした平成31年度までの5ヶ
年計画をたてました。

それによると市の人口は、年々
減少傾向にあり14歳未満の人口
及び出生率は共に、国、県、中
核都市平均より低い水準にあり
ます。世帯数でみると単独世帯
が増加し子どもがいる世帯は減
少しています。一方で女性の就業
率は、結婚・出産を機に旦那職
する傾向はみられますがM字曲
線で上昇傾向が見られます。そ
れに伴い、保育所へ子どもを預け
たいというニーズが増加。特に3

歳未満児に集中しています。

長崎市は平成28年度進捗報
告書を作成。今後の市の施策の
方向性としては「就学前児童数
は今後共に減少傾向は続くと思
定するが、保育ニーズは当面増
加するものと見込んでおり、平
成31年度を量のピークと想定し
保育の新施設整備や既存施設の
定員増、認定こども園への移行
等を推進し、待機児童解消に
努める」としています。放課後児
童クラブにおいても小学校区内
の登録率は増加傾向にあり学校
の転用可能教室の活用を中心に
整備を進める方向にあります。

子育て支援
”おあそびひろば”
未就園児の親子を対象
としたあそびや交流の
場を提供しています。
(とまちこども園)



地域や小学校との連携
のもと、様々な体験を
通して生きる力を育て
ます。
(放課後児童クラブ
とまちクラブ)



5 障害、 生活困窮について

北多機関型
地域包括支援センター

平田 悠介

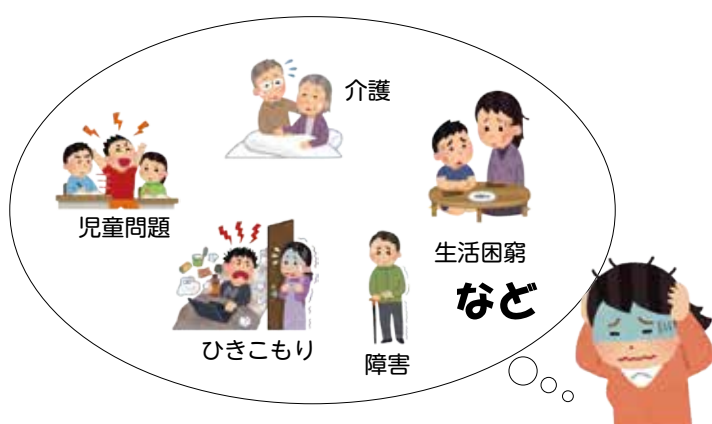
今回は障害をもたれている方
や、生活困窮の方の支援について
お話しさせていただきます。

長崎市は人口およそ42万人、
10万世帯の中核都市です。障害
者手帳をお持ちの方が、人口の
およそ7.3%、生活保護の受給
率がおよそ3%となっています。
日本全国では障害者手帳保持者が
6.7%、生活保護が1.69%
となっており、どちらも全国の平
均より高い状況となっています。

多機関型地域包括支援セン
ターにおいても、高齢の両親とひ
きこもりの子供が同居されている
世帯が、生活困窮されているケー
スの相談が多いです。ひきこもり
の子供も障害を持たれていること
が多く、色々な課題が絡み合っ
ていることを実感しています。

このような方の支援において
は、その世帯の中に私たちを受
け入れてもらうことも難しいので
すが、支援のゴールとして、就
労やその方の居場所を作っていく

ことは更に困難です。そのこと
を私たちは出口支援と呼んでい
ますが、この出口を作っていく
ためには医療、介護、福祉だけ
でなく行政や地域の農業、漁業、
商店街、企業など様々な方たち
との繋がりが様々な資源を作っ
ていくことが必要です。私たちは
様々な方たちとの繋がりを作
り、障害や生活困窮の課題を
持つ人だけでなくすべての人た
ちが住みやすい地域を作ってい
けるよう努力していきます。



〈看護小規模多機能ホーム編〉

Heartful × Story

看取り介護を終えて

看護小規模多機能ホームいきいき
ケアマネジャー

宅明 武志

「お父さん、家に帰らんでよかったとかなあ…」

娘様から、亡くなった直後、涙ながらに言われた言葉です。

本人様との出会いは、平成29年6月梅雨の時期。

主介護者である奥様と二人暮らしで、介護サービスの通いや泊まりを利用しながら、在宅生活を送っておられました。

主治医は出口外科 出口雅浩先生。この時すでに「右肺がん末期」の診断を受け、予後は安定しているが、余命2〜3か月の告知をされている状態。御家族からは「いきいきを利用しながらできる限り在宅生活を続け、最後はいきいきで看取って欲しい。」との希望でした。県外に住む息子様達も同様のお気持ちであり、平成29年7月看護小規模多機能型居宅介護いきいき（以下、看多機）の利用開始となりました。家族関係は良く、病状告知を受けてからも、家族旅行をしたり、昔から趣

味であった登山や海に行ったりと本人様との時間をとても大切に過ごされていました。

利用開始から約2ヵ月が経つ頃、右肺の痛みが強くなり、在宅酸素導入、食事摂取困難と急激に状態が悪化し、帰宅が困難な状況、出口先生からは「来る時が来たかもね。」との言葉も聞かれました。奥様からは「他の利用者さん達の迷惑になるのでは？」と看多機での看取りに迷う場面、看多機職員も初めての看取り介護を行うことに関しての不安もありましたが、主治医・訪問看護との連携を図る事により、看取り介護を継続することになりました。それから毎日の様に御家族や御親族の方々、県外の息子様も帰省し、本人様との最期の時を過ごされていました。肺の痛みや呼吸苦で起き上がる事さえ辛いはずの本人様も、「面会中には「起きる…」と言い、短時間ですが座わることができ、流れていた曲に合わせて歌ったりする姿もありました。今思えば、最後の力をふりしぼり、御家族に夫である姿、父親である姿を見せたかったのかもしれない。そして、平成29年10月2日午前11時、御家族、出口先生、訪問看護、看多機職員に見送

られ、安らかに永眠されました。

看取り後、本人様と顔馴染みになっていた他の利用者様が涙ながらに挨拶をされる光景もあり、見送る際には、本人様が昔登山の時に歌っていた「山男の歌」を御家族・他利用者様・職員で合唱し、感極まるものがありました。

しかし、冒頭でも挙げた娘様の言葉…「家に帰らんでよかったとかなあ…」

これからも私達が携わる看取り介護の課題として、住み慣れた場所で、馴染みの人たちに見守られ、その人らしい最期を迎えるために、看護小規模「多機能」型居宅介護の「多機能性」を見つめ直さなければ感じる言葉となりました。



看護小規模多機能ホーム
いきいきにて



家族旅行にて

今日の在宅看取りに 関し思う事

医療法人 出口外科医院 副院長
認定NPO法人 長崎在宅D・r・ネット 理事

出口 雅浩 先生



H14年病院勤務医から町医者となり、初めて自宅で高齢の患者を看取った。私が子供のころから当院に通ってくれていた方だった。その頃、ケアマネジャー（CM）・介護保険・訪問看護ステーション（訪問ST）の事をほぼ知らず、御家族と私だけの在宅医療だった。看取りの後、子供や孫と一緒に旅立ちの身なりを整えてお送りできた。介護力があつたからできた事である。その後H15年より長崎の在宅医療を担う開業医の集まりである長崎在宅D・r・ネットを立ち上げ、多くの訪問STやCMと共に協働してきた。D・r・ネット

立ち上げと時期を二にして国は在宅医療・在宅療養の必要性を施策とし打ち出した。以来、外部からの支援体制はそれなりに整ってきたが、最近は高齢ご夫婦お二人暮らしや、認知症のがん患者の在宅医療が増えてきて、介護力（内部力）のないご家庭では、本来ゆっくり自分達らしく迎えるはずの人生の終末期が、日々戦いの場と化すことがある。

仕事を抱えた子供たちにも生活がある。介護休暇を獲ることができるのはごく一握りの人たちだろう。出来る事なら穏やかに自宅で最期を迎えて頂きたいが、不安と焦りの中で、昼夜疲れ果てるくらいなら、病院に戻してあげた方がいいのでは、と思う事も多々ある。しかし、現在の医療では、なかなか元の病院に戻ることは難しいのが現実である。国は病院死よりも在宅死を推奨し、医療費の抑制を推し進めている。ここで国の言う在宅死は自宅死＋施設死である事を皆さんは意外と御存知ない。施設では自宅と違い人手がある。人生の終末期には医療が果たせる役割はごく小さい。医療よりも介護力（人手）である。老老介護では着替えさせる事すら出来ない事もある。ましてや寝たきりになっ

た際の下世話な重労働である。出来る事なら気持ちよく旅立たせてあげたい。そのためにはお風呂も歯磨きもおむつ交換も都度必要。最期をどこで迎えるかはとても重要な事で、見送る側にはベストは無い。見送った後、だれもが大なり小なりの後悔の念が残るのは当たり前的事であろう。しかし、それまでの期間を本人・家族がどう穏やかに過ごせるかが、人生の終末期には重要と思われる。動ける間は出来る限り長く住み慣れた家で過ごし、本人もご家族も笑顔でお別れできる環境が一番ではないだろうか？そのために色々な両葉の場を選べる時代が来ることを願わずに居られない。



大好きな山にて



Heartful×Multiple

〈マルチプル〉



ちょこっと 「健康」レシピ♪

高血圧予防におすすめ!

さばのムニエル 〜レモンソースかけ〜

南長崎クリニック:管理栄養士 川村 法子



〈1人分〉

エネルギー/192kcal

蛋白質/14.6g

塩分/1.0g

材料(2人分)

さば	60g×2切れ
塩	0.2g
小麦粉	4g
油	4g

レモンソース

薄口しょうゆ	6g
砂糖	4g
レモン汁	6g
だし汁	50g
片栗粉	2g
小ネギ	4g

※付け合せはレタスやトマトなどの野菜をお好みで。

作り方

- ① 付け合せは水洗いして好みの大きさに切り、ブロッコリーは塩なしで茹でる。
- ② さばに塩を振り5分ほど置き、下味をつける。
- ③ 鍋に、片栗粉とネギ以外のソースの材料を入れ、煮立ったら片栗粉を加えてとろみを付ける。
- ④ ペーパータオルで②のさばの水分をふき小麦粉をまぶし、フライパンに油を熱し皮目から両面をキツネ色に焼く。
- ⑤ ①と④を器に盛り、①にドレッシング、④に小ネギを散らして③のソースをかけたら出来上がり。

ひとくちメモ

さば等の青魚の油にはEPAやDHAが豊富で、降圧作用が期待できます。また、レモン等の柑橘類には、塩分の物足りなさを感じにくくさせる効果があり、減塩の強い味方です。野菜類に豊富なカリウムは体内の余分な塩分を排出し、食物繊維は腸内でのナトリウムの過剰吸収を防止します。さばの旬は秋～冬です!血圧が気になる方は、ぜひお試しください。

イベントスケジュール

大 浦

1月	お正月 浪の平地区地域ケア推進会議
2月	節分祭 浪の平地区防災訓練
3月	ひな祭り

風 頭

1月	お正月
2月	節分
3月	風頭公園桜まつり 避難訓練

戸 町

1月	お正月
2月	節分 (とまちこども園地域訪問)
3月	卒園式

琴 海

1月	お正月
2月	節分「鬼豆打ち」
3月	琴海花まつり

Heartful×Gallery

〈 読者投稿けいじ板～日々是好日～ 〉



小規模多機能ホームなんくり



南長崎クリニック 通所リハビリ



南長崎クリニック 通所リハビリ

秋の夜 月みて跳ねる うさぎかな

シガ

温泉に 旅の疲れをとりながら
亡き夫への 思い出しのぶ

淑子

人生の 喜怒哀楽を乗り越えて
辿りつけば もう九十八

淑子

体ごと 青春捧げし 兄悼む

宜花

孫は外 近所の孫が おはようさん

まっち



表紙のお話し

今回の写真は、グループホームなんくりで行われた「お餅つき」です。百寿の彼女がけがをしないか冷や冷やする感じもありますが、楽しい雰囲気が伺える良い1枚です。皆様も載せたい写真があればご一報を。

～編集後記～

広報誌「四季」の初版はいかがだったでしょうか?これから「四季」は、医療介護福祉の流れや普段感じている疑問や悩みを、皆様に分かりやすく紹介していきます!

次回号も是非ご覧ください!

編集長 福田 真司

「創業理念」

当法人は、医療及び介護事業を主体とし、それに関連する分野において
常により人間的に、より科学的に対応することに徹し、社会に信頼され、絶えず成長し続ける
法人を目指します。その実現のために以下の理念を掲げます。

より人間的に、より科学的に

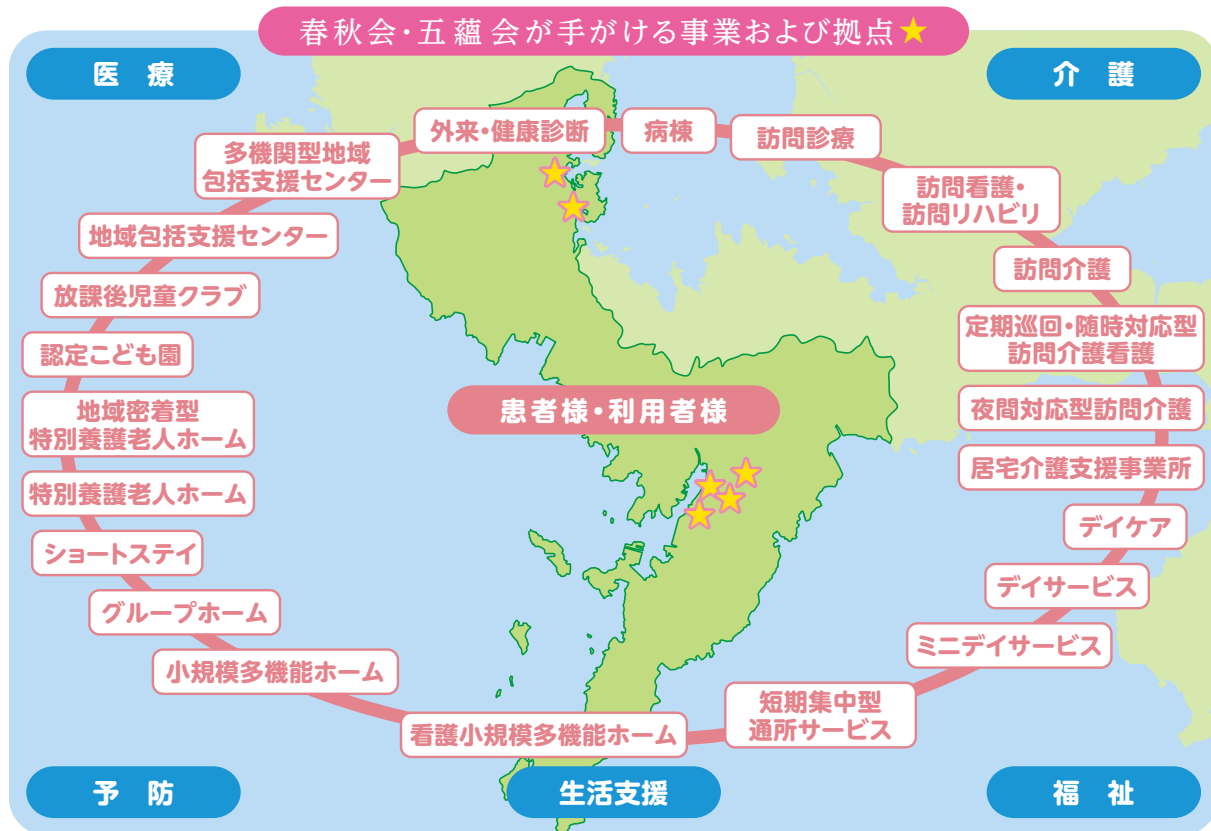
【第一条】
本物のやさしさを
全ての人の生命、人間性、自主性そして個性を尊重し、
安心しておくれる継続療養の実現を目指します。

【第二条】
仕事の質にこだわりを
他者の批判に耐えられ、客観的で妥当性のある
仕事を目指し自らの職務の質的向上に努めます。

【第三条】
法律・道徳を守り、
自らが理解されるように
職務倫理（プライバシーの保護と守秘義務、
強要の禁止、その他）を遵守し、
職務内容の説明に努め、理解・同意を求めます。

【第四条】
自分の成長のため
自らの職務の社会的意義及び医療・福祉分野での
位置づけを自覚し、職務の中での自己実現を目指します。

【第五条】
本当のチームワークを
各自、我がままを捨て、仲間への思いやりを持ち、
良好な職場環境の形成に努めます。



医療法人 春秋会

本部：南長崎クリニック
〒850-0921 長崎市松が枝町3番20号
TEL.095-827-3606
<http://www.syunjyu-kai.or.jp/>



社会福祉法人 五蘊会

本部：特別養護老人ホーム 琴の浦荘
〒851-3103 長崎市琴海戸根町743番地47
TEL.095-884-3510
<http://www.gounkai.or.jp/>

